

射水市総合計画審議会 第1回元気部会

会 議 録

平成25年7月30日(火)

射水市総合計画審議会 第1回元気部会

日 時：平成25年7月30日（火）午後1時30分～

会 場：射水市中央図書館2階会議室

【議事日程】

- 1 開 会
- 2 部会長あいさつ
- 3 第1回射水市総合計画審議会会議録の確認について
- 4 射水市市政検証懇談会報告書について
- 5 射水市総合計画基本計画の見直しに向けた現況と課題の整理について
- 6 その他
 - ・次回の部会の日程について
- 7 閉 会

〔敬称略、順序不同〕

【出席者】

< 委 員 >

部会長 金 岡 省 吾（富山大学地域連携推進機構教授）
東 忠 夫（公募委員）
尾 山 春 枝（新湊漁業協同組合代表理事組合長）
楠 井 悦 子（小杉地区地域審議会）
西 田 修（連合富山射水地区協議会）
前 田 清 美（大島地区地域審議会）
牧 田 和 樹（射水市商工協議会長）
水 元 睦 雄（いみず野農業協同組合代表理事組合長）
村 上 俊 也（公募委員）
八 嶋 佑 二（射水市観光協会会長）
山 本 大 志（国土交通省北陸地方整備局伏木富山港湾事務所長）

< 行政部局 >

河 原 隆 幸（産業経済部長）	樋 上 博 憲（都市整備部長）
山 崎 武 司（上下水道部長）	谷 川 晃 司（産業経済部次長）
野 開 勝 政（都市整備部次長）	川 腰 保（上下水道部次長）
片 岡 幹 夫（商工観光課長）	杉 浦 実（港湾・企業立地課長）
岡 田 努（農業水産課長）	島 崎 真 治（都市計画課長）
北 本 和 郎（道路建設課長）	津 田 泰 宏（道路・河川管理課長）
嶋 谷 優（建築住宅課長）	川 口 政 明（上下水道業務課長）
前 川 信 彦（上水道工務課長）	中 波 博 英（下水道工務課長）

事務局

明 神 栄（市長政策室次長）	一 松 教 進（政策推進課長）
中 川 一 志（政策推進課長補佐）	助 田 綾 乃（政策推進課主任）
笹 川 栄 司（政策推進課主任）	笠 間 正 和（政策推進課主任）
黒 梅 康 弘（政策推進課主任）	海老江 亜 希（政策推進課主任）
白 石 友 樹（政策推進課主事）	

1 開 会

【事務局】

皆様お疲れ様でございます。開催時間より少し早いですが、おそろいでございますので、ただいまから、第1回射水市総合計画審議会元気部会を開催いたします。

なお、本日から行います部会には、市から、審議いただきます事項に関係する部長、次長、課長等が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の会議の出席者につきましては、席次表のとおりでございますので、よろしくお願いいたします。

それでは部会長、よろしくお願いいたします。

2 部会長あいさつ

【部会長】

部会長の金岡です。よろしくお願いいたします。前回の審議会から一月たちまして、皆様方には元気部会という形でお集まりいただきました。

この元気部会ですが、産業、観光、都市環境の3つが大きな柱になっておりまして、この柱に関するインパクトとして、事務局とも話をしている中で必ず出てくるのは、1つは北陸新幹線が開業すること、これによってどんなインパクトが出てくるのだろうか、ということ。これは射水市も当然ですが、県内各市町村でいろいろと考えられております。特に射水市の場合は、あわせて新湊大橋の開通、あるいは伏木富山港の総合拠点港の選定など、大きなインパクトが出てきているわけです。国のほうも産業政策の進め方というのが少し変わってきておりまして、8月か9月には産業競争力会議というものが各地方ブロックでスタートすることになっています。北陸の場合は中部圏という形ですけれども、石川、富山が特別に取り上げられるような形で動いておりまして、射水市のこの動きについても、ぜひ、そういったところに積極的に声を大きくかけていただければと思っております。

特に最近、地域の課題をビジネスで解決していくという動きがあり、これは射水市のような自治体には大きなことだと思っておりますが、地域の資源を活用するコミュニティビジネスと言うのですけれども、大学の経営学も大きく変化してきております。何を言いたい

のかというと、射水市のような形の即地的な動きが、今、重視されております。今回の会議では、射水市が抱えている課題を事務局の方々がきれいに整理しており、既に資料は配付されているかと思いますが、膨大な資料でしたので、なかなか読み込むのも大変だったと思います。市役所サイドからは現状と課題に触れた上で、皆様方から数多くの意見をいただきたいということも伺っております。そのような形で今日は進めていきたいと思ひます。

委員の皆様方には、日頃感じているところをぜひとも、今日、ぶつけていただきたいと思ひます。少し長くなりましたが、そのような形で進んでいきたいと思ひます。

3 第1回総合計画審議会会議録の確認について

【部会長】

それでは、次第に沿って会議を進めていきたいと思ひます。

まずは次第ですが、皆さんのお手元にあるかと思ひますが、2つ目に部会長あいさつと書いてあります。続きまして、3つ目、第1回総合計画審議会会議録の確認について（資料1）とあります。事務局からご説明をお願いします。

【事務局】

資料1、第1回総合計画審議会会議録の確認でございます。これは、先般行われました第1回審議会の内容をとりまとめたものでございまして、内容については一度目を通していただいているということもありますので、確認をいただくということで、止めておきたいと思ひます。

なお、公表に当たりましては、審議会運営要領のとおり、委員のお名前を掲載せずに公表したいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上です。

【部会長】

よろしいでしょうか。事前に会議録はお配りしておりますので、ご一読されているかと思ひますが、ご意見、ご質問などがありますかどうか、ここで伺ひしたいと思ひますが、いかがでしょうか。

（質疑なし）

【部会長】

よろしいでしょうか。それでは、ないようであれば、会議録について、まずはご了承いただいたという形で1つ目の議題を進ませさせていただきますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、1つ目の会議録のご確認をいただいたという形でございます。

4 射水市市政検証懇談会報告書について

【部会長】

次に、次第「4 射水市市政検証懇談会報告書」についてです。

こちら事務局から資料をご説明願いたいと思います。よろしく申し上げます。

【事務局】

資料2として提出しております射水市市政検証懇談会報告書でございますが、これは、委員6名の方々から、本年の2月から7月11日までの報告書の提出までの間に、6回にわたり総合計画及び重点施策について、達成状況等を検証していただきまして、報告書を提出していただいたというものでございます。

これも内容については説明いたしません、できましたら各委員の皆様には、この報告内容も踏まえながら今後ご意見をいただければ大変ありがたいと思っております。

それともう1点、本日配付いたしました、第1回審議会以降に寄せられたご意見についてです。これも審議会の後、委員のほうから、総合計画全般あるいは各部会に関するご意見をいただいたところでございますので、この意見もいろいろ踏まえながら、各委員からご意見をいただければ大変ありがたいと思っております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

まず、資料2、市政検証懇談会報告書ですが、こちらについては今後の見直しの作業の活用にしていきたいということ事務局から伺っておりますが、ご意見、ご質問等があれば、ここで伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

こちらにつきましては、このような形でご提言をいただいているという形でして、今後

の議論の中に活用していけるとと思いますが、いかがでしょうか。もしあれば、ここでいただければと思いますが。

（「よろしいです」の声あり）

【部会長】

では、ないようですので、今後の見直し作業の中で活用させていただきながら、その都度ご意見をいただければと思います。

5 射水市総合計画基本計画の見直しに向けた現況と課題の整理について

【部会長】

では、議事録、懇談会の報告書という形で進んでまいりましたが、これから今日の議論の本題になります。

皆様のお手元にもあると思いますが、5番目、射水市総合計画基本計画の見直しに向けた現況と課題の整理について、資料3でございます。非常に資料が分厚いですが、事務局とも話をしながら、今回の部会ではどこまで目指すのかというのを先にぶつけております。そのようなあたりもお話を冒頭にいただけるかもしれません。あるいはこの資料についてまとめられているものを全ていくのか、あるいはまとまりごとに行くのか、事務局のほうに考えてくれという形で言うておりますので、事務局のプレゼンテーションはお任せしますので、どういう形で議論をしていったらいいのかということは内部で検討してもらっていると思います。それを踏まえた上でお願いしたいと思います。

また、各委員の皆様方には、それぞれ日頃のご活動の中で関係の深いところは当然ながら皆様方に重点的にご意見をいただきたいと思いますが、あるいは周辺領域で関連するところもあれば、随時伺いしていきたいと思いますので、繰り返しですが、皆様方の積極的なご発言をお願いしたいと思います。

では、事務局からの説明をお願いします。

【事務局】

それでは、今後のお願いも含めてご説明をさせていただきます。

まず、部会の進め方でございますが、各部会共通のことになるかと思いますが、所掌する分野の基本計画の中身についてご協議いただきたいということになります。先ほど部会長からもありましたように、元気部会では観光、産業、商業、都市環境という形で19の

節で構成されておりますので、これを順次ご意見をいただきたいと思っております。

そこで、基本計画について今日ご協議いただくわけですが、基本計画は現況と課題という縛りのほかに、将来の姿や目指す方向、そして具体的な施策の内容で構成したいと思っております。

部会は今回を含め3回程度の開催を予定しておりまして、第1回目の部会は10月下旬ごろ、3回目は11月下旬ごろに開催したいという予定であります。

そこで、今日の協議でございますが、先に配ってあったかと思いますが、表の見方をお配りしていたかと思いますが(A4資料提示)、基本的に今日の資料は見開きの2ページで1つの項目を掲げているというものでございます。左側が現計画の現況と課題、目指す方向、現在まで取り組んでいる主な取組ということで記載しているものでございます。このような主な取組を踏まえまして、右側が新たな現況と課題、現計画と比較して見直しとなる新たな要素といったものを記載しております。また、それに伴う指標やデータ等も記載しているところでございますので、こういった新たな見直しとなる要素を踏まえて、現況と課題をこのように直せばいいのではないかとということで、今回提案という形で出しております。いわゆる下線を引いてある部分が現計画から新たに見直したところを示しているものでございますので、よろしく願いいたします。

第2回目の部会では、今日いただくご意見を踏まえまして、新たな現況と課題を改めて整理させていただき、基本計画の他の項目であります将来の姿、それから目指す方向、施策の内容をあわせまして、基本計画全体の素案として提示させていただき、再度委員の皆様からご意見を頂戴したいと思っております。

第3回目の部会につきましては、第2回目の部会でいただいた基本計画の素案に対するご意見を踏まえまして、事務局で整理した基本計画の素案をご確認いただき、最終的にはこの部会の基本計画案として次回の審議会の全体会で報告するという形で進めてまいりたいと思っております。

今日は、今ほど申しました現行の計画案の修正といいたいでしょうか、新たな現況と課題についていろいろご意見をいただければ、大変ありがたいと思っております。

なお、ここに掲載しております19の施策でございますが、これを順次ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【部会長】

今のご説明でよろしいですか。この資料には、現況と課題があります。右側部分の下線

が引いてある部分が、今回新しく追加しているところですので、これをご覧になりながら、ご意見をくださいという形です。

今日は、現況と課題にとどめながらも、施策の方向性というか、こんなのもやったらどうだということも当然構わないと思いますので、それはなぜやらなければいけないかなど、現況と課題についてお伺いしたいという形です。

第2回には、今日の意見を踏まえて、計画素案を出しますということだと思いましたが、ここはよろしいですね。

では、そのまま続いて1つ目をお願いします。

【事務局】

それでは、資料の75ページ、元気部会の体系図でございます。ご覧のとおり、2つの部で19の施策を掲げているところでございます。これを順にご意見をいただきたいというものでございます。

76ページ、77ページをお開きください。第1節の「射水ブランドの創造」であります。現計画の現況と課題について記載するところでは、平成18年度に策定した「射水ブランドの基本計画」という文言がございましたが、これにつきましては、新たな課題の点で23年度に新たに「射水市観光・ブランド戦略プラン」というものをつくったということでございまして、これにあわせて施策を展開するというふうに修正したものでございます。いわゆる計画の名称を変更したということでございますので、よろしく願いいたします。

【部会長】

事務局からは、これでよろしいですか。こういう形でございますが、まず1つ目、19節ありますので、事務局では1節当たりの目途はありますか。意見が出た状況によってでしょうか。

【事務局】

はい。

【部会長】

わかりました。

では、射水ブランドの創造について、説明は簡単でしたが、現況のほうでも、特産品で優れたものはあります。知名度を高めていかなければいけないという中で、戦略プランに基づいてやっていきたいということでございますが、こちらについて皆様いかがでしょうか。よろしいですか。

【委員】

ブランドはわかるのですが、1つ整理をしたいと思っているのは、75ページに体系図がありますけれども、例えば、一番右の射水ブランドの確立・発信というところとか、

という第1節のところをやっているわけですね。この頭に、第1章として、「新しい価値を生み出すまちづくり」とあるわけですがけれども、ニワトリか卵かなんですけれども、どうなれば新しい価値が生まれてくるのかというようなことが、正直わからないので、例えば交流人口を増やすとか、何々を増やすというような、何かもう少し大きな目指すところがあって、それを見なければ、実はブランドというのは本当に必要なのかどうかということもわからないと思うのです。そのへんはわかる範囲でいいので、どんな感じで進んでいくのか、教えていただきたいのですが。

【部会長】

ありがとうございます。事務局はいかがでしょうか。

ブランド価値創造に関するアウトプットというか、何を設定しているかということです。

【委員】

設定までしなくていいです。

【部会長】

何が中に入っているかということでしょうか。ブランド価値によって射水市がどうなっ
てほしいのか、思い描いていることがあるのではないのでしょうか、ということだと思
うのですが、どうでしょうか。

【事務局】

1つは、総合計画の持つ性格だろうと思いますので、やはり定住人口の増大、あるいは
こういったブランドを出すことによって、観光あるいはそういった面からの交流人口の増
加といったことがあろうかと思えます。ただし、今、大きな分野でお話しするよりも、む
しろミクロといえますか、「射水ブランドの創造」といった一つの区切りの中で色々ご意
見をいただければ、大変ありがたいと思っております。

【委員】

「新しい価値を生み出す」と書いてあるので、この定義のことです。第2章でしたら、
「活気ある商工業が栄えるまちづくり」というのはわかります。要するに、商工業が栄え
ればいいわけです。ところが、新しい価値を生み出すというのは、何に対する価値なのか、
その価値がどう効いてくるのかということがわからない。ブランドなど、色々なことを見

ていく上で大事なことだろうと思います。

【部会長】

どうでしょうか。事務局から何かあればお願いします。

【事務局】

新しい価値を生み出すということでございますが、これに伴いまして、商工業の発展等が図られることが一つの目標だろうと思います。ただ、先ほども申しましたように、全体枠でお話すると、いろんな話が飛んでしまいますので、できましたら、今ほど申しましたように「射水ブランドの創造」という枠の中だけでご意見いただければ大変ありがたいと思います。

【委員】

ということは、ブランドが必要かどうかわからないけど、とりあえずブランドをつくるとしたらどうか、というふうに考えればいいということですね。

【事務局】

ブランドをつくって商工業を発展させるというイメージでお考えいただければいいと思います。

【委員】

そうですか。

【部会長】

委員さん。

【委員】

元気部会だから、情報を含めてブランドづくりをするということなのですが、この機会に、もう少し違った角度からブランドや観光振興を考えてみたらどうかと思います。それは、美しいものが見えるとか、あるいはおいしいものをいただくとか、そういうものは欠かせないことではあるけれども、自分のまちの誇りや魅力というのは、そういった部分もさることながら、例えば、もっとこのまちならではの仕組み、ひょっとしたら物ではないかもしれないですし、システムかもしれませんが、そういったところで誇りを引き出していく、魅力度を高めていくということが、委員がおっしゃった、価値創造、価値をつくり出すということになった時に、大きな支えになるのではないかと考えています。事務局では各項目別に捉えてみたいということで、それはそれで大切なことだと思っておりますが、もう少し大きなくくりで、このまちが、どのようなすばらしいまちでありたいのか、いいとこ

ろはもっとここに磨きをかけたらいいのではないかと、もう少し方向性というものを考えられないかと思っています。

【部会長】

私も同じことを言おうと思っていたのですが、今言われたことはわかりますでしょうか。観光を含めたブランドだから、違う観点だとは言っておりましたが、まちの魅力や誇りを引き出すというか、それをシステムという言葉で話されていましたが、そんな仕組みが必要ではないかということでしょう。また、このまちのすばらしいところに磨きをかけるとか、これは施策になるかもしれませんが、そういった観点も入れてほしいということだと思います。

ブランドをつくった時にどんな方向になるのかといった、委員がお話になった点は重要だと思います。シティプロモーションですとか、各地域でブランド化ですとか、そういったことをされていると思いますが、委員から言われたとおり、システムですとか、そのような点も配慮してほしいということでございますので、どこかで答えが引き出せるかどうかわかりませんが、考えていただきたいと思います。事務局、どうでしょうか。

【事務局】

ただいまのご意見を踏まえて、現況と課題の再度の見直しを行いたいと思います。

【部会長】

重要な視点だと思います。

他にありましたら、どうぞ。

【委員】

私はよく出張に行っているのですが、新湊というか、富山というと、やはり魚介類で、その中で一番有名なのはカニです。その次は白エビ、でも、白エビは新湊でたくさんとれることはほとんど知れ渡っていません。富山の魚介類は、ブリとカニ、それよりもホタルイカでしょうか。それらが非常に有名で、白エビは非常に値段が高いです。東京ではこちらの5倍ぐらいの値段で売っています。それをもう少し、新湊というか射水市というか、それは何とも言えませんが、みんなカニと白エビは、割と安いお金で食べたいのですから、そのあたりのPRをもっと多くすればと思います。出張に来られるほとんどの方は、カニと白エビ、冬はブリです。でも、「新湊にいいところがあります。」と言っても、ほとんど観光はしていかれません。それが今の実態だと思っています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

どうでしょうか、他にありませんでしょうか。今のような具体的なことでも構いません。

【委員】

今、カニと白エビとホタルイカの話がされましたけれども、ホタルイカは湾内の滑川や魚津、新湊など、獲れる場所は結構あります。ですが、白エビは、富山市の中でも岩瀬だけ、岩瀬と新湊の地先だけです。日本中どこかにとれるところはあるのかもしれませんが、日本中で、今まではそこだけにしかとれない白エビという魚でした。ホタルイカやカニみたいなものはPRしても末端まで行くだけの漁獲量がありますが、白エビは日本中の国民に食べてくださいと言ってPRするだけの漁獲量がないため、PRすればするほど漁業者は苦しいわけです。それだけ獲れてくれて、売れてくれれば一番ありがたいのですが、PRしただけの価値がないと言ったら変ですけども、結局、欲しい人がたくさんいて、量が少ない状況ですから、消費者がたくさんになればなるほど値段も上がってしまいます。ですから、PRすればするほど値段は上がっていくものですから、そういった点が困るところです。40キロ入っているざるが10万円の時でも「10万円は高い」と言われるのですが、この前は、少し獲れないと、40キロのざる1杯が15～16万円しました。それぐらいに値段が上がっても、普段取り引きしている仲買さんたちは、お金を出しても欲しい状況です。しかし、仲買さんに出荷する時は倍にも売れないわけです。ですから、苦しみながら獲れない時を皆さんはしのいでいるというような状況ですので、たくさんの人に食べてもらいたいのは確かなのですが、漁獲量が少ないために、少し困っているわけです。

今年はいつものぐらいに量が獲れればいいのですが、ホタルイカがたくさんとれました。ですから、たくさんの消費者の人たちに食べていただけたと思うのですが、今年は今のところ4月から解禁になっているのですが、4、5、6、7月、去年から見ると、随分量が少ないです。値段が高いものですから、PRするのもどうかと思いながらPRしているような状況で、たくさんとれば一生懸命PRしたいのですが、その点が少し苦しいところです。

【委員】

白エビはものすごく有名です。食べたいと言われています。しかし、結構高いです。

【委員】

そうですね。

【委員】

では、ブランドは何なのですか、という話になった時、「ブリですか」と言われたら、ブリは氷見が有名ですし、「カニですか」と言われたら、新湊は獲れますが、やはり越前ガニや松葉ガニが有名なので、新湊のズワイガニはそれらよりは有名ではないです。

【委員】

新湊はズワイガニではないです。ベニズワイガニです。

【委員】

ベニズワイガニですか。「同じようなものなのですよ」と言っても、越前ガニや松葉ガニのほうが有名です。ですから、本当にブランドにするのなら、白エビはすごいと思っています。

【部会長】

時間もございませんので、ちょっと一度とめさせていただきます、今の白エビやベニズワガニの具体的な話が出てきましたが、資料の「地域イメージの向上を図りながら」といった点と白エビの展開とが絡んでくると思いますので、ここをどう処理するかというのは、事務局で検討いただきたいと思います。

【委員】

色々な意見が出たのですが、カニ、白エビという話ですけれども、カニについては委員さんが言われたとおり、ベニズワイガニと普通のズワイガニがありますが、このズワイガニというのは値段がかなり高くて、石川県の橋立、福井の三国、ずっと向こうへ行くと香住、境港、あのあたりは食べるころと泊まるころがセットになってあるのでブランド化されているのであって、残念ながらこの射水市はそういった地区に負けないアクセス、あるいは環境、食べ物はあるのですけれども、通過型の地域ということで泊まるころがありません。これが一番の欠点ではないかと思っています。

また、このブランド化については、ただ一つの市が音頭をとったり、あるいは組合が音頭をとったり、企業が音頭をとったりしてもなかなか進展しません。どのようにやればいいのかということが一番の課題ではないかと思っています。

私は、ここ4、5年の間、国の支援事業、中小企業の支援事業に携わり、経営革新とか地域資源の活用、商工連携など、色々と応援してきました。昨年、射水市では白エビを練り込んだラーメンがありました。この相談も商工会議所のある女性の委員から相談があったのですけれども、専門の人に任せて何とか商品化にこぎつけて採択になりました。そ

のPRが新聞に載っただけで、それで終わっています。これをその後どうやって生かすかということについては、やはり国、県からの補助ですが、高岡市あたりは、地域資源、農工商で40～50万円くらい支援していますので、射水市もそこまでやって支援していかないと、なかなか普及しないと思います。これが採択になれば、販促費用として2分の1だったと思いますが、県のものでやれば600万円、国のものでやれば3,000万円、順々に使っていけばいいのではないかと考えています。また、農業にも関係する6次産業化、これについてもハードルは高いですけれども、販促費用ではなく、生産設備の費用にも使えるということで、こういうことにも力を入れていかなければならないのではないかと考えています。

【部会長】

ありがとうございます。おもしろい指摘だと思います。通過型でなく、いかにストップさせるかという点と、取組として、先ほど委員のほうからも出ましたけれども、システムの話です。市町村、組合単位ではなく、どうやって実現していくのかというところで、私も冒頭に言いましたが、地域資源活用という点で、高岡市が40万円の補助とありましたが、富山県内の市町村がいろいろと動いていると思います。6次産業化でハードルが高いとおっしゃっておられましたが、確かに国のものは大変だと思います。ただ、金融機関も色々力を入れていたり、委員さんのような方々がフォローアップしていただいているという中で、仕組みとしてどうするのかといったご意見だと思います。

色々出てきましたが、このブランドというのは非常に広いので、6次産業から次の観光、農業、新産業など、全て入っているところですので、話を止めずに色々とお聞きしましたけれども、このあたりで事務局から何かありますか。

【委員】

この節も次の節も「射水市観光戦略プラン」というものがキーワードになっています。普通、総合計画ができて、こういうプランができていくのだらうと思うのですが、今はもうプランができています。それを総合計画で取り上げていきましょうというような流れになっていると思うので、あまり長いものでなければ、次回あたりで資料として見せてもらったほうがいいのではないかとお願いいたします。

【部会長】

概要版でもいいですので、もしあればご検討ください。

そろそろ次へ移ります。ブランドは次も関わってきますので、ぜひ、ご発言いただい

いない方々もお願いします。

では、2つ目、78、79ページになるかと思いますが、事務局、お願いします。

【事務局】

それでは、2つ目の項目、「魅力ある観光の振興」でございます。

現計画の現況と課題につきまして、現況面では「通過型の観光」の前に、「滞在時間が短い」という文言を追加したところでございます。それから、課題点になりますが、新たな要素といたしまして、新湊大橋の開通、それから、海王丸パークが「恋人の聖地」に認定されたことなどを踏まえまして、賑わいの創出、交流人口の増加を課題とするよう見直したというものでございます。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。的確に話をしていただいているので、この線を引いているところという形ですが、先ほど委員さんからも出ましたけれども、通過型の話ですね。新湊大橋ができて北陸新幹線も開業するという中で、滞在型、広域観光という形にしていきたいということでございますが、いかがでしょうか。どなたでも構いません。観光についてです。

【委員】

観光戦略プランがあるから難しいです。

【部会長】

しゃべりづらいということでしょうか。その中で具体化していく点でもいいと思いますので、このプランをご存じの方もいらっしゃると思いますが、滞在型という形の中で、横に入込客数の資料もありますし、ご意見がございましたらお願いします。

【委員】

プランを全く見ていなくて言うので的外れかもしれませんが、ポイントはやはり公共交通機関の活用だと思います。ちょうど北陸新幹線が開業し、射水市に入ってくる方法は幾つか考えられます。新幹線で入るとしたらどういうルートで入るか、飛行機で入るとしたらどういうルートで入ってくるのか、車で入るとしたらどういうルートで入ってくるのかを考えた時に、それぞれに入り方というのがあって、一番のターゲットは、新幹線で入ってくるお客さんをどういうふうに動かすか、ということなので、私は北陸新幹線の審議会でも言ったのですが、レンタカーとかタクシーといった、比較的行動範囲が自由になる、

タクシーは公共交通とっていいのかわかりませんが、そういったものを取り込んでいくことを入れてもらったらいいと思います。とにかく動きやすくしないとだめだということがポイントだと思います。

【部会長】

ありがとうございます。新幹線新駅からの連携についてですね。

【委員】

そういったタクシーには、幾らか県や市がお金を出してあげないと、例えば富山市から新湊へ来るのに、8,000円や9,000円と言われたら高いですから、タクシーで来る人には、援助したほうがいいかと思います。また、この前、富山空港の関係の会議の時に発言したのですが、もし富山に降りて、高岡の観光地へ行くとか、新湊へ来るとか、黒部へ行くとか、宇奈月へ行くとか、そういう人たちがたくさんおられれば、どこから来られるかわかりませんが、これはそういったところへ行くバスのことですが、そのようなバス会社と提携したほうが、人数を余計に運べたりしていいのではないかということを行いました。

そういうことも考えて、これは宇奈月へ行くとか、これは富山の市街へ行くとか、これは氷見へ行くとか、お客さんがおりた地点をきちんと把握して、お客さんを呼び込むことも考えたほうがいいかと思います。タクシーは、お金のある人は幾らでもお金を出せばいいですが、たくさんの観光客がいる時には、バス会社とも手を結んでいったほうがいいかと思います。

【部会長】

ありがとうございます。色々な観点からいただきましたが、新幹線新駅から連動するシステムのことだと思います。

【委員】

各地域は新幹線開業に向けて色々と進んでいるのですが、私の感じでは、一番進んでいるのは南砺市、砺波市です。小さな交通会社が許認可を持っており、金沢の駅へ人を迎えに行き、そこでおりた客を南砺市五箇山に持ってくるというような計画を立てております。それに伴って庄川遊覧では、試験的にスイーツ船のイベントをやって成功しています。それを地域資源の活用ということで支援したのですが、辞退はされましたけれども、その後は独自でやっておられ、非常に活性化しています。それに伴って、庄川温泉郷の観光組合が、富山国際大学の学生からだったと思いますが、おもてなしの資源について色々な意見を聞いて取り組んでいます。

残念ながら、県内では、あと宇奈月温泉でしょうか。強いて言えば、この射水市は、非常に食べるもの、環境、アクセスもいいことはもう皆さんご存知ですけれども、どうやってこちらに呼ぶかということについて、この先の話になるのですが、小矢部市にアウトレットを持っていかれました。あそこも全天候型ということで、今は色々と考えていると思います。泊まるどころもなく、雪の問題もあります。北陸三県、あるいは名古屋あたりからの車での客を狙っているのではないかと思います。そのおぼれではないですけれども、それをどうやってこちらに持ってくるか、交通の便を考えると、氷見や能登のほうに行くのは目に見えています。南砺市は必死に対策を練っています。この射水市も、やはり、市がどれだけ補助できるか、大手の観光会社が、ただ人が来たからといって迎えに行っ、こっちに連れてくるということは少し難しいのではないかと考えています。

【部会長】

色々いただきましたが、他にいかがでしょうか。

【委員】

こちらに来て半年もたたないのに、まだ地域のことを十分理解してはいないのですが、市民の意識みたいなものの改革が要るのかという気が少ししています。

観光という観点でいうと、射水市の方だけではないのですが、富山県の方々の多くは、何となくイメージとして、ほかの県の方に比べて中身を磨くことは一生懸命されるのですが、PRすることは潔しとしないようなところがあるのではないかと考えています。観光という、やはりある程度PRしないとお客さんは来てくださらないので、これは総合計画の中で位置付けるような話ではないのですが、少しそういう意識改革みたいなものが要るのかという感じがしています。

新湊大橋は我々が整備しましたが、標識が非常に少ないです。他の県から来ると、まだそんなに浸透していないので、通行料を取られるのではないかと考えている方も結構いるということで、非常に個別な内容になってしまうのですが、そのあたりの意識のことです。他の県から来た人がどう感じるか、というところまで想像を働かせないと、なかなかうまくいかないのではないかと懸念を持っています。

もう1つ、自分たちの地域に関心を持つということが非常に大事だと思います。もちろん皆さん持っていらっしゃると思うのですが、例えば、私はこちらに来て、海王丸がなぜここにあるのだろうと思い、地元の人に聞いても答えはあまり出てこないです。海王丸パークの入込客数が100万人ということなのですが、例えばお客さんをお迎えした時に、「海

王丸きれいですね」でもいいのですが、その歴史的な経緯というのを当然説明できたほうが味わい深く、そういったことでいらっしゃる方の満足度が何倍も変わってきますので、そういう意識を変えていくということが大事かと思います。

また、これからスマートフォンの時代ですので、スマホで検索しやすいような情報提供やそういったものが必要になると思います。

先ほど委員さんの話の中に、「新湊」か「射水」かという話がありましたが、例えば、インターチェンジの名前を「射水・小杉」に変えてみるとか、色々な地元の問題があるのかもしれませんが、例えば北陸本線も三セクになるので、名前をこれまでの駅名に「射水」を入れてみるとか、そういう観点で全国的な知名度を得るとかということも考えられます。

滞在型の観光という話がありましたが、我々も橋をライトアップしたりして、夜滞在してもらえるような工夫をしているところですが、他の夜景とコラボレーションしてみるとか、あと昨日、海王の湯というところへ行ってみたのですが、あそこも泉質が非常によくて、あぁいった温泉も活用して、食べ物もいい、温泉もある、夜景もあるというようなことで、滞在型というところを目指してもいいのかと思いました。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

いろいろご意見が出てきましたが、事務局はよろしいですか。

【事務局】

はい。

【委員】

1つだけ、事務局に聞きたいのですが、射水市の観光の一番のメインになるところはどこだと思っておられるのですか。

【市担当部局】

射水市の観光のメインというか目玉、リーダー的なものとしては、当然海を抱えておりますので、全国的には海辺であり、今ほど委員さん方も言われました、魚介類の食べ物、それから、海辺では橋と海王丸と立山連峰の景観であったり、中心となるのは現在はそういったところではないかなと思っております。

【部会長】

よろしいですか。

【委員】

はい、わかりました。

【部会長】

他にいかがでしょうか。観光のところ、他に関係しそうなところもあまりないので、ここも時間を止めずに進めましたが、いかがでしょうか。

それぞれ色々ご意見が出てきましたが、事務局で今のうちに回答しておくとか、もう少し突っ込んでいくところなどがありましたら伺っておきますが、どうですか。

【事務局】

1点だけお願いします。先ほど北陸新幹線の開業に伴う2次交通、3次交通のことも少しお話しがあったと思いますが、これは安心部会のほうでも、快適で利便性のあるまちづくりという項目の中で、色々ご意見を賜りたいと思いますので、今日のご意見も踏まえて安心部会でも協議願えればと思っております。

【部会長】

そちらでもあわせて回答という形ですね。

それぞれご意見が出てきました。よろしいですか。

【委員】

79ページの枠の中に、「滞在時間が短い通過型の観光となっています」とありますが、今言われたように通過型です。食べる物を食べたら、泊まる場所も別にならずし、見て回るところもそんなに1日、2日かけて見るようなところもないですし、やはりそうなると思います。八尾では、何日もかけておわら風の盆がありますから、あそこに泊まることになります。八尾のおわらの時に、その時だけ家を開放して、そこで食べたり飲んだり、泊まったりしていただくところも八尾にはあります。ですから、せっかく射水市にも、そういう食べたり、見たりするところがありますが、もう少し、2日も3日もかけて見ていただけるようなものがあれば、誰か空き家を買うとか借りるとかして、安く泊まることができるようにして、3日ほど経って帰る時にはお土産を買って帰ってくださいと言えるのですが、10月の八幡宮のお祭りも山は一日で終わり、5月のお獅子のお祭りも一日で終わり、どこかのお祭りも一日で終わりですから、見て一日で終わりです。ですので、八尾みたいに何日も続けるような、これに合わせてこれもある、あれもあるというような、祭りの方式を射水市全体で仲良く変えるよう、方法として二つの祭りを一つにするか、三つを一つにするか、何かそういうようなことも考えて、来た人がそこに2日も3日もいてくれ

るようにはならないのでしょうか。八尾だと2日も3日もあそこにいらっしゃって、そして一緒に踊ったりして、何かそこにいて楽しめるようなことがあれば、通過ではなくて滞在型観光客を呼び込めるのではないかと思うのですが、そんなことは考えられないですか。

【部会長】

答えられる範囲でいかがでしょうか。少し長くなったので、このへんで観光は切りますが、どうでしょう。

【委員】

今すぐどうということではなくて、そういうこともまた考えていったほうが良いということですね。

【市担当部局】

ありがとうございました。例えば、射水市では曳山を3つ、3日間に分けてやっています。例えばそれをくっつけて3日連続でやるとか、そういうようなイメージを持っておられるのでしょうか。

【委員】

曳山だけではありません。

【市担当部局】

なかなかそういうことは、それぞれの町の歴史や色々なことがあるので、難しいかと思っています。また、例えば射水市の規模で2日、3日、人をとめておくイベントができるかということも検討してみる価値はあると思うのですが、なかなか今の現状では難しいと思っていますところがございます。

【委員】

一日の祭りばかりですから。今日これを見たからもう帰るというのでは、滞在型にはならないのではないかと思うのです。例えば、ここに書いてあって滞在型の観光地にしたいという時は、何かそこにいて楽しめたり、楽しい買い物があったり、楽しくおいしい物がいただけるとか、結局2、3日楽しめるものがないと滞在型になりません。

【市担当部局】

確かに、新湊大橋ができてから、非常にたくさんの観光客の方が海王丸パーク周辺に来ておいでます。毎日、特に土日、祭日なんかですと、多くの方で賑わっているわけですが、まさにここに書いてあるように短い時間しかおられません。北陸新幹線が開業するわけですから、そういう方も何とかして呼び込む、呼び込んでも、また射水市にいていただく時

間は短い、それでは同じです。ですから、今から課題になるのは、それをどうにかして市街に導く方法、それを今から一生懸命考えていかなければならないと思っておりますし、できればこの会で皆さんのお知恵を拝見できればありがたいと思っています。

【部会長】

ありがとうございます。2つでほぼ1時間近くいきましたので、一度このへんで観光は切りたいと思います。いいですか。

(「はい」の声あり)

【部会長】

第3部に行きたいと思います。事務局からお願いします。

【事務局】

それでは、「活気ある商工業が栄えるまちづくり」でございます。3つの節を一度にご説明いたします。

まず、第1に「新産業の育成について」でございますが、これは現計画の富山商船高等学校が富山高等専門学校に学校名が変更されたということで修正しております。それから、23年度にこの富山高等専門学校と包括協定を締結したということも新たな要因でございます。課題点といたしましては、産学官の連携に当たり、若者の情熱や斬新な発想等を取り入れるよう見直したというものでございます。

次のページをお願いいたします。「活力ある工業の振興」でございますが、現計画につきましては、富山新港背後地の企業団地に特化したような現況と課題としておりましたが、株式会社プレステージ・インターナショナルの誘致を実現したということもございまして、新たな現況と課題につきましては、市全体での企業配置のあり方について記載したというものでございます。

次のページをお願いいたします。「にぎわいのある商業の振興」についてでございます。これは現況のほうで、「地域商店経営者の高齢化と後継者不足など」を追加したというものでございます。課題点のほうでは、「各商店街が活性化するよう」というところを、「魅力的な商店街となるよう」と文言を修正したということが変更点でございます。

以上です。

【部会長】

新産業、工業、商業という形の3つの節ですが、どの関連でも構いません。ご意見を賜ればと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

3つまとめてというか、まず、新産業ですけれども、まさに産学官連携は大事だと思います。とりわけ、私はこれからの時代は6次産業化が、農業、水産業にも関わってくるのだらうと思いますけれども、幸いにも射水市には近畿大学の水産研究所があるので、これを生かすということが私は一番の近道だらうと思っています。

天然でとれる魚介類と、養殖で生産される魚介類と両建てでいけばいいと思っています。決してそれは相反するようなことではなく、天然物には天然物の価値がありますし、養殖物には養殖物の利点があるわけで、それを双方生かしながら、特に養殖は6次産業化を進めていけばと思います。

近畿大学の前の理事長だった世耕さんが言っていましたけれども、水産試験場で養殖しているマグロが、大阪で出されています。これが大ブレイクして、行列がついていて、今度は銀座にも店を出すというようなことを言っていたので、これはまさに6次産業化のいいモデルだらうと思っています。そういった意味では、今ある資源、近大があるわけですから、そのアドバンテージを生かすということが大事だと思います。

それと同等に、富山県立大学は、ものづくりにおいては、県内においてはそれなりの技術を持っていますので、こちらそのまま進めていくべきだらうと思っています。ですから、この項については、とにかく新たな切り口でどんどん進めていくということを書けばいいと思います。

それから2つ目の工業ですけれども、基本的に工業団地については、これは入りやすく出やすいという条件をそろえていないと売れません。企業が抱えている3大コストと言われているのは、1つは人件費、もう1つはエネルギー費、最後は配送・輸送コストです。ですから、エネルギー、電気は日本の電力会社の中で北陸電力が一番安いですから、多分エネルギー的にはいいだらうと思っています。それから人件費は、ほぼ全国どこへ行っても同じくらいだらうと思っています。では、次は配送・輸送コストです。配送・輸送コストというのは何に関係するかというと、アクセスのしやすさに比例をするわけです。インターチェンジから近い、港湾から近いといった、そのへんの動きやすさが大きなポイントになってくると思うので、逆に、今売れ残っている工業団地を見ると、やはり少し不便なところにあるのも否めないと思ったりもしているので、そのへんの条件整備を考えるべきだらうと思っています。

加えて、港湾がこの後に出てくるのですけれども、港湾が日本海側拠点港になったので、

例えばここにコンテナをたくさん集めてくることになれば、当然そのコンテナを扱う荷役業者も、それからその周辺でサービスをする企業も必要になってくるわけで、そういった意味では第3次産業の誘致ということも大きなポイントになってくると思います。いわゆるサービス業関係、プレステージインターナショナルは、まさにいい例だと思いますけれども、そういった分野を攻めていくということです。単純な工業団地という発想は捨てて、あまり業種を限定せずに、とにかく誘致をしていくという発想が必要だと思います。

それから最後に商業ですけれども、これはいつも申し上げるのですが、大型スーパーで98円で売っているポッキーを、町のお菓子屋さんでは120円で売っています。そこで勝負をしてもだめなんです。つまり、コモディティ化をしてしまった商品は、大きなところに負けるに決まっているわけで、いかにコモディティしない商品をつかって売るかということが、私は商業の大きなポイントだろうと思っています。奈良に行くと、老舗の鯉節屋さんがあって、そこは鯉節しか売っていないところです。なぜ奈良の山の中で鯉節を売っているのかよくわからないのですけれども、そこは何百年続いているのですが、つぶれません。地元の人が必ずそこへ鯉節を買いにくるわけです。その鯉節とスーパーで売っている鯉節がどうかといたら明らかに違います。品質が違います。買いに来る人は、そこに差別化を求めているわけで、小売をやっている方には非常につらいかもしれませんが、ここが一つのハードルだと思います。ですから商品開発というか、そういう付加価値をいかに付けるかということでありますので、そのへんについては、やはり少し支援をしていく必要があるのだろうと思っています。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。商業などに関しましては、地域の方々の視点でも構いませんし、どうでしょうか。ここは3節同時ですので、少し時間をかけてよろしいかと思います。

【委員】

地域の商店街はやはり大事にしていかないと、日々の生活の中で、急な時にどうしても、「ああ、あれがほしいのに」と思うことがあります。車に乗ってスーパーへ買いに行けば全部色々なものがそろいますからそれでいいですけれども、人間ですからたまに忘れることがあります。実際に食事の支度をしながら、「あっ、忘れた、買いに行こう」と思った時に、車に乗って行くわけにもいきませんし、「近くにお店屋さんがあればいいな、すぐに買

ってこられるのに」と思うことが多々あります。ですから、どうすれば細く長く商店街を商売していけるようにしてあげられるか、やはり地域の人と考えていくことであって、他の市町村や他の県の人を考えることではなく、みんながここにあれば使いやすくて便利でいいから、みんなで使いましょうという、地域の人意識だと思のです。みんなで1円や5円や10円高くても、ないと困るから、みんなでここを使いましょうという意識です。これはやはり自治会か自治振興会かわかりませんが、そういうところを中心にして、皆さんと話し合いながら、その地域の商店街を盛り上げることが大事でないかと思います。

【部会長】

ありがとうございます。地域密着型商店街ということですね。

【委員】

本市の大変な特徴としては、高岡市が入り込んでいて、商圈的には、例えば具体的に名前を挙げると、パローのあるところは高岡市です。あそこはどこが商圈なのかというと、純粋な高岡市民ではなくて、射水市民がほとんどの対象商圈となっています。「いみず元気にせんまい券」がありましたが、これも商工会議所でお手伝いしましたけれども、問題になったのは、姫野・牧野地区で使えないという問題が出てきました。これは難しいのかもしれませんが、商圈という考え方は、行政の区割とは分けて考えなければならないと思するので、そのへんは何とかしてほしいと思います。六渡寺の私の会社が高岡へ行ってもいいですから、川で切ってしまって、姫野・牧野地区を射水市に取り込むとか、それは実際できないですけれども、何かそういう高岡市と協定とか連携など、何かそのようなことも、実は大きなネックになっていることとして、押さえておいてもらえると助かります。

【部会長】

難しい問題でなかなか答えられないと思います。

【委員】

これは答えなくていいです。

【委員】

近畿大学水産研究所との提携ということで、ヒラメ、マス、フグを扱っているのは、私も知っているのですが、この中でフグの活用、これは全国各地に有名なところがたくさんありますが、大体フグ料理というのは、1万円ぐらい出さないとおいしく食べられません。それが大分には5,000円で提供したということがあります。それも生の肝を出したというような、すごくインパクトのあることを聞いております。これは随分前の話ですが。

そこで、このフグを何とか射水市から発信したらどうかというようなことです。このフグについては、私も全然知らなかったのですが、小浜市はJR西日本あるいは観光協会と提携して、カニとフグで冬場はもっています。かなりの観光客が来ていると聞いています。生産地であるこの射水では、我々の口に入るのは道の駅ぐらいで、あそこで安く提供してもらっていますけれども、何か雰囲気がいりません。そういった意味で、食べる場所もやっていけないといけないというのは、皆さんご存知だとは思いますが。

それと、そういった加工品を売るがために道の駅を利用するなど、あるいは、川の駅を利用する。川の駅は私も知らなかったのですが、全国の水郷地区に幾つかあります。ただ残念ながら、道の駅はご存じだけでも、まちの駅というのは知っている方があまりいらっしゃりません。まちの駅というのは、全国的に道の駅と同じぐらいたくさんあって、観光客あるいは一般の方がそのまちを利用した時に、トイレなどを利用する、あるいはそこでブランド品を買う、そういうもので、富山県内でないところは氷見市と射水市ぐらいではないかと思うのですが、そのあたりをどのように考えていらっしゃるかお聞きしたい。また、川の駅は、あれはどういうふうにPRされているのでしょうか。この間、ネットで調べて行ってみたのですが、建物もいいし、場所もいいし、食べる物はきつときと市場から見ると安く、軽食喫茶ですから当たり前かなとは思っているのですが、あそこを拠点とした観光地、そういう利用ができないかと思っています。

何にしても、やはりいいお湯が出るのであっても、泊まるどころ、ホテルがないということ、これが一番の欠点ではないかと思っています。

谷浜の海水浴場は今の時期はものすごく混んでいたはずなのですが、色々な問題があるのですが、今はさっぱりです。射水市の海老江の海水浴場をもっとPRすれば、北陸新幹線の開通とともに、信州方面から車、あるいは新幹線利用でいらっしゃるかと思っています。それには、ホテルをつくるとか、そういうことを今から考えても遅くはないのではないかと考えています。

【部会長】

ありがとうございます。

新産業、工業、商業の中でどういう形で盛り込むか、あるいはどこかに入れ込むかというのは事務局で考えていただきたいと思いますが、幾つかご質問があったと思います。お答えできるところで、事務局から、今、答えられるならばどうでしょうか。

【委員】

駅の近くの空き地にホテルではなくて、簡単な建物で宿泊できるようなものをつくって、山のほうの子どもたちが、その時期になったら来られるような、臨海学校みたいな形はどうでしょうか。ホテルなどの宿泊施設ではないですが。

【部会長】

事務局どうでしょうか。

【事務局】

川の駅等につきましては、後ほど担当部長のほうからお願いしたいと思います。

宿泊施設につきましては、これは射水市については、需要に対する供給が少ないというふうに感じております。これまでも、宿泊施設についてはいろいろお話は伺っているところでございますが、なかなか誘致ができないところでございます。今後とも宿泊施設につきましては、やはり観光といった面もございますので、やはり滞在型といいますか、それも踏まえた形で、宿泊施設については、今後積極的に誘致に努めてまいりたいと思っております。

【市担当部局】

川の駅なのですが、確かに海王丸パークに比べると訪れる方は少ないです。ただ、最近ですが、海王丸パークからできるだけ誘導するように、まず1つの方法として、川の駅にお客さんが行けるように看板等を整備いたしました。もちろん、先ほど言われたように、ホームページなどでも紹介しているところがございます。

また、海王丸パークには、電動レンタル自転車なのですが、それに乗って川の駅へ行き、川の駅でも借りられるというようなつながりを持たせ、海王丸パークと川の駅との連動性を持たせるというようなことも検討しているところがございます。

それと、遊覧観光船ですが、内川観光船というものがあるのですが、これが海王丸パークから出て、内川を通過して川の駅に行っており、そういう連動性もありますので、今からどんどん川の駅というものを活用して観光客を増やし、あそこを拠点に内川を遊覧していただき、そういうお客さんがたくさん出るようにするのが、たくさんある観光振興の目的の一つとして考えております。

【部会長】

ありがとうございます。観光の部分に書けるところがあれば入れていただきたいのですが、ただ、総合計画ですので、まとまった形だと思いますが、ぜひ入れられるところは入れてください。

では、次に行きたいと思います。また幾つかまとめてお願いします。

【事務局】

次に、86ページです。「たくましい農業の推進」についてでございます。現計画のうち、新たな現況といたしましては、これは内容を今の「農業を取り巻く環境」に修正したというものでございます。課題といたしましては、「複合経営や6次産業化を推進する」という文言を追加したというところでございます。また、鳥獣による農業被害への対応についても追加したということでございます。

次のページをお開きください。「森林の育成と林業の振興」でございます。これにつきましては、新たな現況と課題を全文見直したというものでございます。「健全な森林として次世代へ引き継ぐ」という文言を追加したというところでございます。

以上です。

【部会長】

農業、林業、ここで切ったということですね。一度農業と林業で切りましょうという形で、いかがでしょうか。お願いします。

【委員】

射水市の農業の産出額は40億円余りだと思いますけれども、最近、県のほうは市町村単位の算出額も出しませんので、県一般として出しておりますけれども、40億円余りだろうと思います。農協で取り扱う販売高でいきますと、25億、26億円の世界でして、あとは家庭菜園等も含めて、農家にすれば保有米等もございまして、そういうものも含めてでございます。

特に県が勧めております、1億円産地づくり事業ですけれども、となみ野がタマネギで1億円行ったということで、いみず野はどうなっているのかと理事会でお叱りを受けているわけですが、去年で実は1,300万円ほどしかございませぬ。1,300万円ですが、富山県の9割ほどの枝豆は射水市です。とてもじゃないけれども、正直なところ、県内でさばき切れない状況です。去年、ユニー系列で愛知県へ出したのですが、高いときは1キロ当たり400~500円しているのですが、岐阜県あたりも相当枝豆が多いものですから、他の県が入ってくると100円を割ります。そういうような状況を踏まえまして、実は今年、東京の大田市場へ冬の間から出向きまして、今は大田市場にも出荷しております。現在生産しているうちの3分の1ほどが行っておりますから、もうそろそろピークになるわけですが、このまま行くと最終的には生産量が60トンほどになるかと思っておりますが、3分の1

の20トンほどが大田市場へ行くのかという感じを持っております。そういうことで枝豆も全部お金になるわけではございませんので、2割程度がくずです。そのくずを何とかしようということで補助を受けたわけですが、塩ゆでした枝豆を取り出すのが大変ですから、その豆を出す機械があります。それに取り組んでおります。販売先については色々問題がありまして、「販路なき生産はない」というような考えを私は持っているのですが、実は今、やっていく中で冷凍しております。

1億円産地づくりはその程度でございますけれども、一番多いネギは、新湊市の時代に2億円あったそうです。現在8,000万円ほどです。そのような状況で、生産者はこれからも辞めていく人もおられるような状況でございますけれども、小松菜につきましては、黒部市と同じくらいでしょうか。県下ナンバーワンを争っているというふうに思っております。

あとは今ほど言いましたように、「販路なき生産はない」ですが、直売所やインショップを活用しているのですが、直売所も正直なところ、農協の経営的には赤字です。人件費が出ないほど、それくらいなのですが、地元で生産したものは地元の皆さんにおいしくいただいていたきたいということで取り組んでいるわけです。

インショップにつきましても、実はアルビス大島店と提携して取り組んでいるような状況でして、直売所は地元の野菜ということなのですが、7、8割が午前中の勝負です。午後はほとんどお客さんが来られないといいますが、少なくなりました。そのような状況は考えていかなければならない点があると思っております。

また、6次産業化につきましては、支店の統廃合も進めている中で、支店を利用して改造し、みそ加工に熱心に取り組んでおられる新湊の女性部がおられます。これは補助金も受けなくて農協単独で何とかしようということでやりました。色々取り組んでおりますけれども、6次産業化の中で、なかなかそういう大きな施設がないということで、みそ加工は単独でしました。補助を受けているのは、大豆のくずの製品化ですが、色々な複合化ということで取り組んでいるのですが、農地の集積率は80パーセントということで、県下でもトップクラスです。集落営農も県下で一番多く取り組んでおり、福光、あそこあたりと同等と思っております。実は先ほど言いましたように、枝豆でも個人の農家だと、一生懸命に体を使ったのは自分の所得になるのですけれども、営農組合というのは、人件費を払わないといけません。そこが難しいといいますが、地元で労賃としてお金は落ちるので、そういうものを支払うと赤字になるというような状況であり、補助金を入れても、やっとという状況です。集落営農組合は特に旧大門町、大島町が進んでいるわけですが、

ども、農林水産大臣賞候補、天皇杯受賞の4つの中の1つに入っております。今後どうなるかわかりませんが、チューリップの球根に取り組んでおりますが、組合長が言うには、「植えたら200万円赤字です」と頭からおっしゃいます。奨励金も入るのですが、それでも140~150万円の赤字とのことですが、そのような状況で取り組んでいます。工業生産と違いまして、季節でとれるものが決まってくるわけです。工業生産は天候に関係なくいきますし、季節も関係ないわけですが、そこらへんが農業と工業の違いがありまして、実際、赤字でも取り組んでいるというのは、年間の仕事をつくるためにやっているようなところもあるわけです。しかし、熱心に取り組んでおられる営農組合もあるわけですし、なかなか今のTPPの問題もありまして、補助金で経営が何とかつながっているというような状況が現実でございます。できたら、補助金ではなく、法制化してもらって売れば、もっと安心して猫の目農政と言われなくなるのではないかという感じを持っております。

いずれにしても、農地集積率80パーセントは素晴らしいことですので、現在は78パーセントほどですが80パーセントを目標にしておりますけれども、近々には達成するのではないかと考えております。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。恐らくここは、委員さん以外はなかなかお話しづらいのだと思うのですが、色々な現状をお話いただきました。

こちらにつきまして、現状のところはどうしていくのかというのは次だと思いますが、事務局のほうでもし何かあれば、よろしいですか。

【市担当部局】

農業でありますけれども、農業者自身の生産額は低迷を続けております。例えば60キロの玄米でありますけれども、1万7,000円弱ということで、かつては2万、3万という時代もあったわけでありまして。このようにずっと低迷を続けていく中で、集落営農を図っていくということでコスト低減を進めているわけでありまして。この集落営農は、あぜ倒しとか集積を図りながら料金を設定し進めていくわけで、これが80パーセントでありますので、いっぱいいっぱいかと思えます。

この中で、どうやって今後、農業が生き残っていくかということで、先ほど組合長さんがおっしゃいましたように進めていくという方向性でして、充実した農業ということで、

6次産業は平成22年度に法的な整備がなされました。これからということでもありますので、新たな総合計画の中で進めていきたいと考えています。

【部会長】

ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。

(質疑なし)

【部会長】

では、次に行きましょう。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、90ページをお願いいたします。「活気あふれる漁業の振興」です。新たな要素といたしまして、漁港の整備を進める中で、1点目には全国的にも珍しい昼せり見学なども可能となり、射水市の新観光スポットとして期待ができるということ、2点目には、27年秋に開催される第35回全国豊かな海づくり大会のメイン会場が射水市ということが決定したということでございますので、この点を踏まえて前後を見直したというところでございます。

次のページをお願いいたします。「水産流通加工業の振興」でございます。現況の部分で、「後継者不足等により」の文言を追加したというところが変更でございます。さらに課題点でございますが、サクラマス養殖事業化実験による新ブランドを要素といたしまして、「ブランド化を目指した商品開発や養殖技術を駆使した高品質魚による6次産業化を図り消費拡大に取り組む必要があります」というふうに修正を行ったというところでございます。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。漁業、水産加工というところですが。

【委員】

昼せりについては、今までは、食べ物を扱っている中に、どかどか入ってもらうのも不衛生だからということで、なるべく見学者は外で見ってもらうようにということなのですが、今度新たに、外から入って上から見てもらうように観覧席みたいなものをつくることになりましたので、来年の3月までにきちんとすばらしいものができると思います。たくさんの方に見学して見ていってほしいと思っています。

それから、市場の中もきれいになり、魚の揚げるところも屋根をつけていただきまして、

とても衛生的な感じで現在仕事を行っておりますので、ありがたいと思っております。

【部会長】

ありがとうございます。

他にはいかがでしょうか。ブランド化に絡むようなことで、前にも出てきたところです。トラフグ、ヒラメなどの話もいろいろ出てきたりしますが、どうでしょうか。

【委員】

毎年フグ解体ショーみたいなお祭りをやっているところがあります。私は去年と今年と続けて行ってきたのですが、大きなフグを例えば何キロあるか、キロ数を書いて箱に入れ、当たった人にどれだけかあげますとか、例えば5キロとか1キロ違ったらビール出しますとか、そういうイベントがあって、解体ショーで切られたフグを幾らかで買ったり、色々なお魚を買ってそこでバーベキューをして食べて、お魚のお鍋もあります。寒い時にすごくおいしく感じられます。子どもたちも来ますし、そういう漁業のあり方もいいのではと思いました。

【部会長】

水産流通加工、各種物産展などの色々なイベントがあります。ありがとうございました。

細かく具体的なところでもいいですし、大きな観点でもいいですし、今日は市役所の皆さん方は受ける姿勢で来ていただいていると思いますので、他にはよろしいでしょうか。

【委員】

農業についてですが、法人化なり営農組織がございます。例えば大島地区は何をメインにするとか、作道地区は何をメインにするとか、そういうやり方ではまずいのでしょうか。

【委員】

今のところ地区別に、そういうものはありません。

【部会長】

ありがとうございます。

よろしいですか。時間も追ってきましたので次へ行きます。

【事務局】

それでは、94ページをお願いいたします。「担い手育成の促進」でございます。現況は現計画とほぼ同じでございます。課題で「農林漁業の魅力を広く発信し、新規就業者や担い手を育成・確保する必要がある」旨を追加したということでございます。

次のページをお願いいたします。「雇用対策の充実」では、現況におきまして、「労働人

口の減少を見込み」ということで、これは変わっておりませんが、「雇用情勢は厳しく先行きが不透明な状況」であるというふうに文言を修正したということでございます。

次のページをお願いいたします。「勤労者福祉の充実」につきましては、これは現計画と内容等は変わっておりませんが、いわゆる現況と課題を少し整理させて記載したということでございます。

以上です。

【部会長】

ここは2つの節でいいということですが、いかがでしょうか。

【委員】

これまでずっと少子化対策のほうで活動していました。ここで、ぜひ言わなければいけないと思って待っておりました。

射水市は大変少子化が進んでいます。全国的に見ればまだ緩やかなほうかも知れませんが、これは大変大きな問題だと思っております。射水市の子育て支援は頑張っております。あと必要なのは、働き方です。若い人たち、出産してしまった後の支援は充実しているのですが、いざ出産しようという時に、働きやすい環境では決してありません。NHKの番組や新聞等に「マタニティハラスメント」という言葉が最近よく出ております。育児休暇を取ることを職場で冷たい目で見られる。これは男性ばかりではなく、女性も冷たい目で見えております。それは、一昔前の働く女性は、自分の努力で頑張ってきた。少子化対策がなくても自分が頑張ってきた、そういう先輩方が、今の若い人はたるんでいる、甘えているというふうに見るわけです。ですが、社会状況が違います。今、安倍首相が3年間の育児休暇の推進というようなことも打ち出されましたが、3年間も職場を離れていては現場復帰は難しいです。ですから私は、3年間の育児休暇ではなく、最低1年、半年でも、そこを充実させて、あとは働きながら子育てできるように、企業から応援してもらいたいと思っております。

射水市の総合計画として、そのところをどう切り込んでいくかというのはなかなか難しいことではあると思いますが、ここには企業の方もおいでになるので、そのところをよく考えて対策を練っていかないと、少子化は止まりません。よろしく申し上げます。

【部会長】

そうですね、そのとおりです。他にいかがでしょうか。

【委員】

今言われました少子化問題、それと女性の働き方ですが、育児休暇については、私の勤務先は企業的に少し大きなほうなので、ほとんどの方が取っておられます。それで今やっているのは、その働き方の短時間の労働時間ができるかできないか、ということですが、今は大分進んでいるのですが、ただ、中小企業のほうの理解はなかなか得られないかと思えます。一緒に中小企業の方ともお話ししているのですが、そこまでの余裕はないということが、今の一つの壁です。

大企業は決められたことなのでそれはやっていくと思いますが、問題は中小企業をどうやっていくかということが、我々の課題だと思っております。少子化になると、企業としても今後は成り立っていかないの、それはぜひとも考えていかなければならない大きな問題だと思っております。何かあったらまた教えていただきたいと思えます。

【委員】

今の話に全く論争する気はないので、意見だけ言わせていただきますけれども、事業主の集まりの立場からしますと、基本的に企業の使命というのは納税と雇用だと思っております。それは間違いなことではあります、ただ、それはその企業が存続できてこそ初めて成り立つことでありまして、特に最近は大企業もそうです。赤字を出してもやっていける企業はいいのですが、ほとんど中小企業は2年、3年と赤字が続くと、もう銀行だって相手にもしてくれませんか、そうなってくると、なぜ赤字になるのかということ考えた時に、それは利益が上がらないからでありまして、利益が上がらないというのは、入ってくるお金よりも出ていくお金のほうが多いということでありまして、さっき言いましたように、コストのほとんどは人件費とエネルギー費です。そういったことを考えると、これはなかなか一筋縄ではいかない問題でありまして、例えば、そういうふうに事業主に求めるのであれば、これはもう国家的な政策になりますけれども、社会保険料を安くしてもらうとか、税金を安くしてもらうとかという話になります。今は、税金と名のつかない名目で税金をたくさん取られています。ですから、何か搾取され放題な状況でありまして、そういった社会制度も少しは変えていかないと、この問題はなかなか切り込んでいけないのではないのでしょうか。一面だけ捉えると、一面というか、ある接点だけを見ていくと、どこかに必ずひずみが出てくるので、少し大きな目で見なければいけないのかと思っております。これは意見です。

中身についてですけれども、確かに若手が不足していて、地方では深刻な問題だと思えます。これに対抗する方法は2つしかありません。外から人を引っ張ってくるか、もう1

つは育成するかしかないと感じています。例えば、商工会議所で進めているのですが、市内でお寿司を握る人たちがいなくなったり、魚をさばく人がいなくなったりして、まさにブランドになりつつある海鮮物の将来が危ういです。それで、すし職人を養成する学校のようなものをつくることができないかといった取組も、実は始めようとしています。ですから、学校というか、学んで育成していく場に対する何かしらの支援というのが、一つの方法だろうと思いますし、それから、外から引っ張ってくるというのは、私はやっぱりさっきの産学連携じゃありませんけれども、研究者です。さきほど言ったように、研究施設はいっぱいあります。近畿大学もそうですし、県立大学は、大学の名を借りていますがけれども、ほとんどが研究施設だと思います。そういうところと連携して、外部から研究する人たちを呼び、そこに人がまた集まってくれば、その周辺の産業というのは起きてきます。そこにまた雇用の道が見えてくるわけで、何かやっぱりそういう核をつくるというか、それに対しての取組をしていくべきではないかと思っています。具体的にはそういう研究施設が大事だと思います。

【部会長】

ありがとうございます。ここでは少子高齢化の問題、少子化の問題、なかなか答えは出ないと思いますが、ご指摘は的確だと思います。どうするかというのは考えてもらいたいと思います。

それとあと担い手のほうですね。外から呼んでくる、育てる、富山県内の各市町村も、育てるといところはいろいろ取り組み始めています。私も一緒にお手伝いをしたりしますが、商店街にしる、ものづくりにしる、色々あるかと思いますが、そのあたりも考えながら入れていただきたいと思います。

他によろしいですか。

(質疑なし)

【部会長】

では、次へ行きます。

【事務局】

それでは、100ページをお願いいたします。「特性を生かした土地利用の推進」でございます。新しい現況といたしましては、大別する市街地の3カ所、これを具体的に「新湊、小杉、大門・大島」というふうに明示したということが現行でございます。課題におきましては、「市内各所とのアクセスが容易な地域での都市機能の集積を図るとともに、既成

市街地、集落、丘陵部等がそれぞれの持つ特性を十分に発揮しながら、相互連携することにより、持続可能な都市を構築し、地域の魅力を高めるに修正したということ、また、「賑わいと交流拡大に向けた大型商業施設の立地可能な」拠点地域の設定をするということを修正したというところでございます。

次のページをお願いします。「個性あるまちづくりの推進」では、現計画では、現況の中で「水」や「水辺」を特色としたまちづくりを進めるとしておりましたが、新たな現況と課題では、港湾関係を特色づけたまちづくりに修正をしたというところでございます。

次のページをお願いいたします。「地域をつなぐ道路網の整備」では、これは現計画と現状は変わっておりません。ただ、課題のほうで、北陸新幹線の開業に伴うアクセス道路整備というものを新たに修正して入れたというところが変更でございます。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。土地利用、都市整備、港湾、道路ですね。先ほど道路のところでもアクセス性が出てきましたけれども、この3つの節についてです。

【委員】

港湾の仕事をしていますので、102ページ、103ページの話をしていただきたいと思えます。

ここに新たな現況と課題ということで書かれていることは、これはこれで間違いないと思いますが、伏木富山港、特に富山新港というのは、位置的にも日本海を中心ということ、三大都市圏からすべて直線距離で300キロ以内にあるということ、地理的に非常に恵まれていまして、今後の対岸諸国の経済発展を見越すと、ものすごいポテンシャルを有していることを認識していただければと思っております。特に地元には港がある意義というのを広くご理解いただくというのが、大変重要かと思っております。先ほどの工業の話でもありましたが、地元には便利な港があるということは、結果的に地域の物流コストを下げることでもありますので、それによって、また企業も誘致しやすくなります。また、企業がそれによって誘致されれば、また航路が増え、便利になって、より物流コストが下がる、商圏が広がる、そういった好循環が生じますので、特に射水市内や富山県内に立地している企業については、地元の港を活用してもらおうというのが、その地域の物流コストを低下させることにつながるということをしかりと意識して取り組んでいかないとはいけません。全般的な話になってしまって恐縮ですが、みんなで地域の港を支えていこうとい

う意識を醸成したいと考えています。特徴として、ロシア航路が非常に充実している、便利な港ですので、そういった観点も押さえておいたほうがいいかと思います。

なお、102ページにある入港船舶数の計画スタート時の1,102隻というのと現況の896隻、それと103ページにある平成20年入港船数427と、平成24年の466の関係というのは、よくわからないのですが、後日でもいいのですが、教えていただければ助かります。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。港にある特徴ですね。いかがでしょうか。

私も昔、港に携わっていた時に、先ほど委員がおっしゃっていたのですけれども、八戸にしても混載サービスを入れたり、エアラインでも混載サービスを入れたりというサービス業の誘致というのも、八戸なんかは特にそうです。京浜との分断をするときに、港湾運送サービスで新しいサービス業をつくったりはしていたのですが、先ほど「港を支える」と委員がおっしゃっていましたが、そのような観点をどこかに考えてもらえればと思います。

他にありますか。港湾の話という形でお伺いしましたが、土地利用は難しいかもしれませんが、あとは道路網です。道路網は先ほど出てまいりましたけれど、よろしいですか。次回また計画素案が出てきたところでもよろしいのですが、具体的なハード整備については、なかなか話しづらと思います。

また、先ほど委員からのご質問は、この場でなくても構いませんので、事務局でお願いします。他にロシア航路の話ですとか、特徴的な話が出てまいりましたので、ぜひ反映させ、計画素案をつくっていただければと思います。

では、次をお願いします。

【事務局】

それでは、106ページをお願いします。「魅力的な住宅環境の充実」でございます。これは現計画と現況は変わっておりません。課題といたしましては、今後、ますます増加すると思われる空き家対策を講じる旨を追加したところでございます。

次の108ページをお願いします。「住みよい生活環境の推進」でございますが、これは見直し要素に関連いたしまして、市民ニーズ実態調査の結果から、バリアフリー化の要望が市民ニーズの高い割合を示しているとは読み取れないということから、現状の課題の文言から削除したこと、それから、市民一人当たりの都市公園面積、これは現計画では県下一

という表現でございましたが、24年度末では県内の2位となったということ踏まえて文言を修正したというところがございます。

次に110ページ、「生活を支える上水道の充実」でございますが、これは、課題の部分といたしまして、東日本大震災の経験などを踏まえた水道施設の耐震化整備を図る旨を記載したというところがございます。

次の112ページをお願いいたします。「水環境を守る下水道の整備」でございます。

これは全文を修正しております。現況といたしましては、下水道整備がほぼ完了したということが1点あるということ、それから、課題のほうでは、「近年多発する局所的な集中豪雨に対し」という文言を追加し、わかりやすい表現に改めたというところがございます。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。これで最後です。4つの節です。住宅環境、生活環境、上水道、下水道。上水道、下水道ともトップレベルでという、いい形で整備が終わっているということでございますが、これはどなたでもご発言していただければと思います。なければならぬで構いませんが、いかがでしょうか。

【委員】

空き家対策のことなんですが、若い子育て世代の家族が低料金で利用できるような誘致をお願いしたいと思います。

【部会長】

的確にありがとうございます。空き家に対しては、最近、色々な方々がやっています。私の知っている高岡市の企業の方々もやっていたりします。

【委員】

質問です。集落や街区に年中水を流すというようなことはかなうのですか。それが1点と、それから、都市計画のマスタープランをちょっと拝見しているのですが、東部地域における大規模宅地開発といったものが視野に入るのか、そうでないのか、という点です。富山市で働く女性も含めてですけども、そういう市民が多い中で、東部地域の将来の可能性というような観点から、今のお考えを少しお聞かせいただければうれしいです。

【部会長】

2つですが、お答えできる範囲で構いませんが、いかがでしょう。

【市担当部局】

今ほどマスタープランの東部地域のことをお話しされたのでしょうか。もう一度お願いできますでしょうか。

【委員】

農業を中心とする振興、発展を展望してとありますけれども、住宅開発といった方向性については、当局としてどんなお考えをお持ちかということです。

【部会長】

都市マスタープランの中でどうですかということですね。

【委員】

日本海、東アジアに対する重要港湾は、まさにゲートウェイなのですが、県都富山市につながるという観点からすると、東のゲートウェイということにもなるので、そういう観点でお尋ねをしているということです。

【部会長】

答えられる範囲でお願いします。

【市担当部局】

マスタープランに関しては、そういう需要の高いところにつきましては、当然手法としては地区計画やそういう形で、用途のかかっていない部分につきましては、それなりの住宅団地等々については、当然必要だろうと考えております。

【部会長】

あともう1つ、街の中に水を流すという点ですが、水を流すとはどういうことですか。どこからか引っ張ってきてということですか。もう少しそれも言ってあげると、答えやすいかと思います。

【委員】

ノスタルジーというようなことが1つ。それから、やはり暮らしには水というものと深い関わりがあります。今は排水路が見直しをされて整備されておりますけれども、農業用水というのはお金を出して買うという前提があるわけですが、そういう暮らしに水、潤いというか、白石地区にせせらぎの誕生が大分前にあったように思うのですが、今はどうなっているのでしょうか。年中水を流していて、そこに潤いが実現していたように思うのですが、私はそういうところも含めて、街の中に水が流れていたら、潤いというものが一層増すのではないかと、そういうふうに思うので申し上げたわけです。

【部会長】

生活環境の部分かもしれませんが、水を使ったまちづくりというか、そういった可能性はありますか、というところで、なかなか市役所の方々は答えられないと思いますので、これは受けてもらっておいて、答えられたら次回に反映してもらおうという形をお願いします。水を使うようなところという形ですね。

時間的にスタートしましてから2時間を経とうとしていますので、一通り話を伺ってまいりました。

【委員】

色々な意味で、この射水市の観光について、問題がたくさんありますけれども、これだけ豊かな材料をいっぱい持ったところは少ないと思います。先ほどから、魚の話も出ておりますが、これだけすぐれた資源、資材を持っている地域をもっと上手に生かしていくべきだろうというのが私の率直な気持ちであります。

私は地域の観光協会の会長をしておるものですから、そういう関係で、それぞれの地域、それぞれの分野の問題点については、色々と皆さんから意見を聞いて、私なりに整理はついておるつもりです。そういうものは、やはり、先ほど、祭りなどは一日だけでおしまいだという話も出ておりましたけれども、そのとおりだと思います。しかしながら、一日だけではなくて、何回もしようと思うと、今度はお金が続きません。やる人がみんな下がってってしまう。色々問題がありまして、検討していただきたいと思います。

以上です。

【部会長】

ありがとうございます。

2時間を超えてしまいましたが、皆さんまだお話し足りないところがあるかと思います。

【市担当部局】

先ほど委員が質問されました、102、103ページの参考となる指標のデータですが、これは103ページの平成20年の入港船舶数、これはコンテナ船のみです。102ページの入港船舶数はすべての船舶の隻数を書いております。そこで違いが生じております。それで資料のほうは、今回は「コンテナ」という表示をしたいと思います。

【部会長】

なるほど、そういったことですか。よろしいでしょうか。また後ほど委員と詰めてください。

現況の部分につきましては、他にあれば、事務局にいただければと思います。

このあたりで議論を一旦終息させたいと思います。皆さんからいただきましたご意見を十分に考慮された上で、基本計画素案の作成をお願いしたいと思います。

6 その他

次回の部会の日程について

【部会長】

次回以降につきまして、それも含め、事務局からこの後もう1つ説明があるかと思うのですが、日程等を含めてお願いします。

【事務局】

今日のご意見を踏まえた形でまた素案を検討していきたいと思っております。

第2回の部会の開催につきましては、10月の下旬ごろを目途としております。詳細な日程につきましては、また部会長と相談の上、改めて委員の皆様にはお知らせしたいと思います。よろしくをお願いします。

【部会長】

ありがとうございます。皆様方からご発言をいただこうとすると、10人ほどいると1人7分ぐらいしかないのですね。なので、もしまだ発言し漏れた、また後ほど気づいたということがあれば、事務局のほうにいただくという形でよろしいですね。

【事務局】

はい。

【部会長】

それでは、時間もございませんので申しわけございませんが、このあたりで閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。

7 閉 会

【部会長】

総合計画審議会の第1回の元気部会はこれをもって閉じたいと思います。

長時間にわたり貴重なご意見をありがとうございました。

これで締めさせていただきます。

